

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車による アライアンス	日産のサステナビリティ

取締役会議長メッセージ

日産自動車は、2019年に新たな経営陣とともに、執行と監督を分離した透明性、公平性、柔軟性のある経営体制を構築し、その翌年には事業構造改革「Nissan NEXT」をスタートさせました。現在まで着実に進捗している「Nissan NEXT」は2023年度が最終年度となっており、今後、次期中期経営計画の策定に入る際には、その先にある日産がこれから長期的に進んでいく方向性も明確にしていく必要があります。そこで2030年に向けた長期ビジョンを策定するため、取締役会において、執行と監督がともに「会社としてのあるべき姿」について議論しました。そのうえで、よりクリーンかつ安全でインクルーシブな誰もが共生できる社会の実現と、真に持続可能な企業となることを目指す長期ビジョン「Nissan Ambition 2030」を2021年11月に発表いたしました。



長期ビジョンを考える際に出発点としたのは、移動手段としてのモビリティを超えて、クルマの役割をどう広げ、どのような価値を提供していくかということでした。この議論は、取締役会やその他の会議において、将来のお客さまのニーズに日産としてどういう価値が提供で

きるのか、その強みを明確にしたうえで、選択と集中の視点で進めていきました。中でもビジョンの実現に向けた中核戦略である電動化については、重要な構成要素であるバッテリーについて、監督側から執行側にさまざまな角度から質問を投げかけました。例えば、市場投入の実現性や需要予測、開発スピードの妥当性、投資対効果、安全性や品質の根拠などについて徹底的に問いかけ、一つひとつクリアにしていきました。こうしたプロセスを経て、全固体電池の市場投入を他社に先駆け打ち出すことができたのは大きな成果だと考えています。またモビリティの電動化を推進するうえで、アライアンスの活用は重要であり、ルノー・日産自動車・三菱自動車アライアンスが発表した2030年へ向けたロードマップと「Nissan Ambition 2030」の整合性についての確認も求めました。

ここから長期ビジョンの実現に向けた一歩を新たに踏み出すためには、より一層、社内の一体感が不可欠となります。執行側には、日産が目指す企業のあり方とそこに込めた思いを従業員とより一体化して共有していくことが何より大切である、と提言しました。取締役会では、引き続き会社と社会の持続的な発展を目指し、極めて大きな期待が寄せられている透明性、公平性のある監督機能を十分に働かせ、責務を全うしてまいります。

日産自動車株式会社
取締役会議長

木村 康